

日田市内河川におけるアユ生育状況等調査(R1年8月5日実施分)結果表

調査箇所		調査結果	ハミ跡等の写真				河川毎の特徴傾向等
大山川	① 大宮沈下橋下流	①下流左岸で10%。 ②大岩の億、瀬の流れ込み淵部分30%。 ③大岩の後ろ、瀬部分で20%。 ④上流全域、流れがゆるい部分で5%程度。 ・解禁前に比べて河床環境が激変、浮石多し。 ・意思を覆っていたシルトやクチビルケイソウが消失。 ・20cm超の個体を数尾目視確認。 【水温22.6℃】 【採捕個体：1尾、21cm】	③右岸瀬	④右岸よどみ	④よどみ部分の河床環境	採捕個体	<p>●前回の調査時の写真と比較すると歴然であるが、ハミアトの数はもとより、河床環境が一変している。</p> <p>前回調査時に見られた、石を覆う堆積物やクチビルケイソウがほぼ消失しており、浮石の割合も増加。これは、7月の出水により河床が洗われ、石表面が更新されたことが主要因だと考えられる。また、クチビルケイソウについては水温の上昇に弱いという研究報告もあることから、夏場の水温上昇も相まって、石表面への活着が弱まったことも考えられる。石表面の堆積物が消失したことにより、鮎の餌環境が改善し、ハミアトが増加したものと考える。</p> <p>採捕個体についても、良好な生育具合であり、解禁当初に見られたような痩せた個体ではなく、体高もある良サイズであったことから、餌環境の改善が推測できる。</p> <p>遊漁の釣果に関しても、7月の出水以降は大山川でも改善傾向で、25cm以上の大型個体も出現し始めているとのこと。</p>
	② 榎瀬橋下流	①岩盤より下流左岸寄りの瀬で10% ②岩盤部分、右岸寄りの瀬で20%、上流堰のすぐ下の白波部分で20%以上のハミアトあり。 ③堰の上流部分、堰のすぐ上から上流に3m程度の部分までにハミアトが集中しており、70%。 【水温23.3℃】 【採捕個体：なし】	③堰上流	③堰上流	②岩盤部分	①岩盤より下流	
	③ 旧大山振興局裏	①下流右岸の瀬うしろ部分はハミアトなし。 ②～④、流れがある部分にのみハミアトが集中。10～20%。 ・瀬以外はハミアトなし。 ・クチビルケイソウではないが、よどみ部分にやや堆積物あり。 【水温23.8℃】 【採捕個体：3尾(うち1尾奇形個体)、最大サイズ25.0cm】	④上流右岸瀬	③堆積物(中流中央)	②下流左岸瀬	採捕個体	
	④ 竹の首沈橋付近	①下流、堰の下は右岸から中央にかけて10%～20%。 ②橋の直下から堰の手前、よどみ部分ではほぼ確認できず。 ③上流右岸の瀬で30%、④中央部の流心部分で20%のハミアトを確認。 【水温23.4℃】 【採捕個体：2尾、23.0cm×2】	④上流中央(流心)	④上流中央(流心)	③上流右岸瀬	採捕個体	
赤石川	赤石川下流	①全体的に30%程度。 ②上流部左岸に50%程度。 ・ただし石表面が真っ黒になるほどのハミアトではないため、縄張りを持っているような感じではない。 【水温23.9℃】 【採捕個体：2尾、21.5cm、23.0cm※いずれも陸封鮎】	①中流流心	①中流流心	②上流左岸	採捕個体	<p>●前回調査時よりもハミアトが増加。ハミアト自体も大きくなった。上流～下流で、ハミアトの割合に偏りもないことから、懸念された早期成熟による早期降下もまだ起きていない様子。ただし、前回同様縄張りを持っているような印象ではない。</p> <p>釣果についても、解禁時に比べれば、出水があり釣れるようになってきているが、とくに良い状況とも言えない。遊漁者アンケートでは、少なくとも湖産鮎特有の追いの良さは感じられないようであった。</p> <p>採捕個体を見ると、良サイズであり、生育自体は良い印象であった。</p>
	大山ダム直下	①下流淵部分、20%。 ②中流の瀬で20%。 ③上流の瀬で30%。 【水温23.2℃】 【採捕個体：1尾、20.5cm※陸封鮎】	③上流瀬	③上流瀬	②中流瀬	①下流淵	
三隈川	① TDK裏付近	全体的に10%程度。 ①下流左岸、少し流れが緩いところに集中してハミアトあり。 ②中流右岸、ハミアト多し。左岸よりハミアトが大きい。 ③上流中央瀬、ややハミアト少ない。 【水温26.4℃】	①下流左岸	①下流左岸	①下流左岸	③上流中央瀬	●前回調査時よりもハミアトが増加した。出水により降下・定着した個体が増加したか。

注：本結果は、調査実施日時におけるアユの生息状況を石の食み跡、個体の目視及び漁獲調査により推定したものであり、アユの漁獲量の増加を保証するものではありません。